vinetur

仏報告書、HVE認証は4万農場に拡大も消費者の支持獲得に苦戦

フランス農業省はHVE認証の税額控除恒久化と水保全に特化した新段階を提案。認証農場の62％をブドウ畑が占める

2026年11月23日（月）



11月23日月曜日、フランス農業省は、同国の環境価値認証Haute Valeur Environnementale（HVE）の今後に関する報告書を公表した。認証農場は約4万に達したものの、生産者に十分な付加価値をもたらし、消費者に広く認知されるには至っていないとしている。

CGAAERが作成し、農業省が公表したこの報告書は、認証の環境要件を厳格化した先行改革を受けてまとめられた。農業省によると、いま中心となっているのは、環境面での目標水準だけでなく、農業分野や市場が推進する他の基準と並ぶなかで、HVEがより明確な役割を見いだせるかどうかだ。

HVEはフランスの農場向け環境認証だ。農業省によると、報告書は制度をより分かりやすく、柔軟にし、商業面でより適切に評価される方法を検討している。認証農場の数が増える一方で、市場価

値が不透明なままであることから、この課題は一段と切迫している。

公式概要によると、報告書はHVEの税額控除を一時的な支援策ではなく、恒久措置とするよう勧告している。また、同等の認証を認めることを求めるとともに、水の保全に関連する新たなレベル4の創設を提案している。

これらの勧告は、より安定した公的支援の枠組みと、認証制度の構成拡大を示唆している。税額控除の恒久化は、農家が制度に参加し続けるための長期的な負担を軽減する可能性がある。同等の認証を認めれば、すでに他の環境制度に取り組む生産者の重複対応も減らせる。フランスの一部地域で水質と水資源の確保への圧力が高まるなか、水に特化した新段階は、制度により具体的な政策上の役割を与える可能性がある。

農業省は、この認証が依然として消費者の理解を得るのに苦労していると述べた。環境認証は、農場での取り組みを、より高い価格、強固な契約、または店頭での有利な扱いにつなげるうえで、販売時点での認知度に左右されることが多いため、これは重要な問題だ。HVEが何を意味するのかを買い手や消費者が明確に理解できなければ、農家は追加の認証対応コストを負担しても、商業的な見返りを得られないおそれがある。

この問題はフランスのワイン業界にとって特に重要だ。公式概要によると、HVE認証農場の62％をブドウ栽培農場が占め、制度内で圧倒的に大きな割合を占めている。したがって、税制支援や認証の相互承認ルール、制度の構成に変更があれば、フランスのワイン生産者の大部分に直接影響する可能性がある。認証コストや小売業者・輸出業者に対する環境面での位置づけ、競争の激しい市場でのボトルの差別化にも影響し得る。農場段階の環境表示に依存する他の飲料サプライチェーンにも同様の影響が及ぶ可能性はあるが、制度におけるワイン業界の比重を考えると、直接的な影響はワインで最も大きいとみられる。

農業省はHVEを、すでに成功が確立した制度として示したわけではない。むしろ、報告書に関する説明からは、認証がより難しい局面に入ったことが明らかだ。認証数が増え、要件も厳しくなった今、基準や民間認証、業界独自の取り組みがひしめくなかで、その有用性を証明する必要に直面している。実際には、HVEを戦略の一部として維持すべき理由を、農家と買い手の双方に示さなければならない。

今回の公表は、フランス当局が信頼性と使いやすさの両立を模索していることも示唆する。基準が緩すぎると見なされれば、消費者や環境団体の信頼を得られない可能性がある。一方、厳格すぎる、またはコストが高すぎると見なされれば、市場から評価されない場合には、農家の支持を失いかねない。より分かりやすく柔軟な制度を求める報告書は、HVEの認知度を高めつつ、導入や維持を難しくしないことが必要だと訴えているようだ。

同等の認証を認めるという提案は、この点で重要となる可能性がある。農家は、公的制度、買い手、業界団体から重複する要請を受けることが多い。こうした制度の整合性を高められれば、対応に伴うコストや複雑さを軽減できる。生産者が環境、品質、原産地に関する複数の要件に同時に対応することが増えているワインなどの分野では、特に意義がある。

水の保全に関連するレベル4の新設勧告は、認証の用途が変化する可能性も反映している。HVEは幅広い環境認証としてだけでなく、特定の公共政策上の優先課題を際立たせるように調整できる。干

ばつや灌漑をめぐる議論、水質への圧力を背景に、水はフランス農業で重要性の高い課題となっている。水に関連する認証レベルを設ければ、当局は支援や認定の対象をより的確に定められるほか、生産者にとっても推奨される取り組みが明確になる可能性がある。

現時点で農業省は、直ちに政策を変更すると発表するのではなく、議論の土台として報告書を公表した。ただし、気候や生物多様性の目標と、農家の収入や市場の実情との両立を図ろうとするなか、同文書はフランスで最もよく知られる農場向け環境認証の今後の方向性を示している。HVE認証農場の大部分をブドウ畑が占めることから、環境認証を商業戦略の一環として活用するワイン生産者、協同組合、酒類商、そして小売業者は、今後の議論を注視するとみられる。